

玉川上水・野の花だより No. 40

野菊 (ノコンギク、カントウヨメナ)

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川 幹子 2026年 9月22日

秋になり、様ざまの野菊が見られるようになりました。大山緑道では、ノコンギクが8月の終りごろから咲き始めました。草丈は30～50cmほどで、直径2～3cm程の花が、次々にさいています。淡い紫色の舌状花が周辺にあり、中央の筒状花は黄色で、根は地下茎で、横に広がり群生します。晩秋まで、咲き続ける野菊です。やや湿った林縁によくみられます。

背丈が70cm程で、風に揺れる楚々とした風情の野菊が、カントウヨメナです。大山緑道では、ソメイヨシノの老木の下でススキに混じって咲いています。ノコンギクよりもやや淡い紫色で、野の花の素朴さが伝わってきます。

園芸品種として濃い紫色の野菊がこれから店頭にみられるようになりますが、ミヤコワスレです。

「菊」は「野の花だより」で紹介した「花菖蒲」と並び、日本の園芸文化の粹といえるものです。新宿御苑で11月になりますと開催される観菊会は、明治11年、赤坂の仮御所で開催された「菊花拝観」に起源を有する催しで、150年もの伝統があります。是非、ご覧になってください。野菊から華麗な菊まで、日本人の心の機微にふれることも、暮らしに彩りを添えてくれるかもしれません。



ノコンギク



カントウヨメナ

2026年 9月20日 大山緑道